

# 水素ビジネス 東北で拡大



## 岩谷産業 牧野明次会長

70年以上前から水素を扱  
い、水素ビジネスの先駆け  
となってきた岩谷産業。近  
年は経済産業省が水素ステ  
ーションや水素で走る燃料  
電池車の普及に向けた目標  
を掲げるほか、民間レベル  
でもトヨタ自動車やホンダ  
が燃料電池車を販売するな  
ど機運は高まっている。岩  
谷産業の牧野明次会長に水  
素ビジネスへの意気込みを  
聞いた。

——政府の後押しもあつ  
て「水素エネルギー」は次  
第に普及しつつある

「数年前はエネルギーと  
しての水素はまだ黎明期に  
あった。液化水素は産業用  
のみで、燃料電池車向けの  
ような民生用はなかった。

大きな転換点となったの  
は、大規模工場の整備によ  
って（それまで主流だっ  
た）圧縮水素よりも大量に  
運搬ができ、純度も高い液  
化水素が供給できるよう  
なったことだ。産業ガスの  
供給先であるお客が液化水  
素に切り替えた」

——液化水素の需要の高  
まりに伴う生産体制をどう  
確保するか

「平成18年に堺市で液化  
水素工場を設立して以来、  
21年には東日本の初の拠点  
となる千葉県市原市に、25  
年には山口県周南市にそれ  
ぞれ工場を造った。山口県  
では、今年11月の供給開始  
を目指して生産能力を2倍  
に増強しているところだ。

燃料電池車が国内で100  
万〜150万台まで普及し  
ても十分に水素が供給でき  
る体制にする。先行して供  
給体制を整える」

——水素ステーションな  
ど全国で水素に関する拠点  
が増えている

「東日本大震災の被災地  
である福島でも32年をメド  
に、東芝、東北電力と組  
み、世界最大級の水素工場  
を建設する。太陽光発電や  
風力発電で作った電気を  
用いて水を分解し水素を作  
る。東北に新たな雇用が生  
まれ、水素に関するヨコの  
ビジネスも拡大すると期待  
している」（中山玲子）



まきの・あきし 大阪経済大経済卒。昭和40  
年岩谷産業。常務取締役ガス・化学品事業本部  
長などを経て平成12年社長、24年に会長兼最高  
経営責任者（CEO）。75歳。大阪府出身。